

きみかけの森ひきやく便

特定非営利活動法人
きみかけの森
〒632-0113 奈良市都祁馬場町566
TEL:0743-84-0300 FAX:0743-84-0320

表彰を受けて

2月19日(金) 第6回地域再生大賞の表彰式が東京の都市センターホテルで開かれ、我が「きみかけの森」は昨年暮れ共同通信社から内定の連絡をいただいたブロック賞を賜りました。

全国から集まった地域おこしや奉仕活動に取り組んでいるいろんな団体の中で近畿でトップの栄誉をいただいたことは、支えてくださっている皆さんのお陰であると同時にわれわれの活動は間違っていないのだという思いをしみじみ持たせていただきました。

会場では、昨年12月に都祁まで審査のためお越しくださったタレントの大桃美代子さんや日大教授の沼尾先生も祝福してくださいました。表彰式のあとの懇親会には一億総活躍担当の加藤大臣も祝辞を述べられ、聞きながら、行政も企業も乗り出せない我々のような活動がますます期待されている世の中だとつくづく思いました。



▲「杉・五平衛」にて



タケノコづくし▶



甘茶の栽培

5月2日~15日 昨年から、「きみかけの森」と表裏一体で活動している「大和高原甘茶栽培協議会」は昨年より農林水産省から助成を受けて漢方薬の一つである甘茶を栽培しています。今年は苗床から畑に移し変えると同時に、土壤の違いでどう育ち方が違うのか、また同じ漢方薬である地黄と比較してどちらが育てやすいかを実験しています。そのために、5月2日、ボランティアの菱田さんにトラクターで畑を耕運してもらい、5月15日甘茶の一部と地黄の植え付けを行いました。

地黄は見ることも植えるのも初体験、近畿農政局や奈良県の専門家の指導をいただきながら、この地域の特産品を作りたいとの思いでやっているので生育が楽しみであります。

▼ 2016年度総会



総会と講演

6月5日(日) NPO法人きみかけの森の総会を開きました。総会では、きみかけの森というからには森のなかにスズランを植えるべきだというご意見をいただきました。また、総会の後、歯科医師で特別養護老人ホームの施設長をなさっている松村清子さんに高齢者の口腔ケアについてご講演をいただきました。当日出席くださった皆さんも60歳から80歳代の高齢者が多かったので大変勉強になりましたという感想をお寄せいただきました。



▲ 甘茶の苗床



▲ 草ぼうぼうと獣害で収穫ゼロのジャガイモ畠



▼ 甘茶の検討会



▼ 地黄と地黄の根



きみかげの森ひきやく便

森のフェスタ2016と今後の課題

8月27日(土) 「森のフェスタ2016」を開催しました。6月から4回にわたってスタッフによる実行委員会を開き、縁日の内容、コンサートの準備などを進めてまいりました。また、現場の清掃、草刈り、テント張りなど前日まで皆さんにご苦労をいただきました。特に、台風のシーズンに入ってきたので、当日の天候をずいぶん心配していたのですが、雨もなく陽射しも強くなく比較的涼しい絶好のコンディションでした。200人近い来場者が縁日とコンサートを楽しんでくださいました。

縁日は、 きみかげの森スタッフによるこんにゃく、アイスクリーム、グリーンティー、ソバソーメン、カレーライスなどに加え、県立山辺高校の生徒さんによるお茶カフェと野菜販売、NPO法人かかしの家による力キ氷、五平餅や、地元の吉井さんによるたこ焼きなど多彩で好評でした。

▼ ハワイアンバンド “PuaPua” & プアナニ礼子フラグループ



コンサートは、 松本真理子さんがナビゲーターを務めてくださいり、金管四重奏の演奏、ハワイアンダンス、そして私たちのきみかげコーラスを披露しました。オープニングでは、トランペットの響きが森にこだまし、とてもいい雰囲気でしたし、生バンドに合わせたハワイアンダンスが艶やかな装いとともにレベルの高い踊りで会場を盛り上げてくださいました。



きみかげ コーラスも樋岡理世先生の厳しい?特訓のおかげで毎年進化しているよというお声をいただきました。終わってからメンバーの女性から「ハワイアンダンサーの艶やかなコスチュームをみると、私たちももっと素敵なお衣装で歌いたい、若草色のティーシャツではあまりにもかわいそう」という意見が出たので来年から工夫しようということになりました。



9月10日(土) 都祁の「ザ・ミモザ・ガーデン」でスタッフの打ち上げ反省会を開いたところ、皆さんからいろんな貴重なご意見をいただき有意義でした。仲間の高齢化につれ、特に農業の戦力が低下していることや赤字がでた森のフェスタのあり方など宿題をいただいた思いました。

来春は西洋シャクナゲを植える 緑の募金活動の助成金をいただき、来春森のなかに西洋シャクナゲを120本植えることになりました。ますます楽しみな森になってゆくのが嬉しいです。

(森岡正宏)

